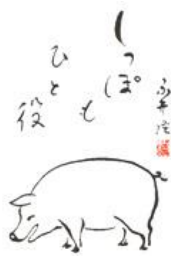




しっぽもひと役



【学校教育目標】やさしさと思いやりで、笑顔がいっぱい
～本物の笑顔あふれる山里小～

長崎市立山里小学校 校長 山崎直人

「本物の基礎力」が育った1学期

1学期は学校全体で「本物の基礎力を身に付けよう」というテーマで取り組んできました。どんな「基礎力」が身に付いたのでしょうか。

【ワンストップ先言後礼で「挨拶力」】

「挨拶ができる」というのは人として生きる上で、とても大切な「基礎力」です。立ち止まって相手の目を見て届く声で挨拶できる子が増えてきたのは嬉しいことです。

【もくもく掃除で「集中力」】

人気のアニメで「全集中」という言葉が流行りましたが、「集中力」は勉強でもスポーツでも大切な力です。無言清掃はその力を鍛える時間でもあります。児童会の発案でレベルアップも図られています。

【目標へ向かって成長する「努力」】

新年度に個人の目標、学級や学年の目標を掲げてスタートしました。その目標に向かって頑張ろうとする「努力」という力が身に付きました。「努力できるのは才能である」ともいわれます。大切にしたいですね。

【学びを楽しむ「本物の学力」】

「学力」が単なる知識量の多さだけではないことは、広く周知されるようになりました。「物知り＝賢い」ではないのです。「学力観」についてはあらためてご紹介しようと思いますが、学びを楽しむ力、やり抜く力、知識や情報を活用する力など「本物の学力」を身に付けさせたいと考えています。

【仲間と共に「協働力」】

複雑で多様化していくこれからの社会で必要な力は、自分の良さや可能性を知ると共に、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、協働する力です。「つながり力」とでもいえるのでしょうか。学校という場で行事や活動、日々の学習を通して、人とつながることの大切さと喜びを体験できていると感じます。

このような「本物の基礎力」が身に付いたのだろう、身に付く機会があったのではないかと考えています。もちろん個人差はありますが、これからさらに高めていくことが大切です。また、小学校段階だけではなく、生涯に渡って身に付けていく力でもあると考えています。

さて、それではこれから始まる夏休みにはどのような力が身に付くのでしょうか。私が期待しているのは、「自己決定力」です。

時間割があり、決められたことを行う学校生活から離れ、「自由」に過ごす時間が増える夏休みです。けれど「自由」を上手に使いこなし、充実させることは、実は難しいことなのです。

自分の生活を自分で決めていく「自己決定力」が必要なのです。夏休みを楽しく充実させたものにするか、あんまり楽しくなかったなとなるかは自分次第。どうか、満足のいく夏休みを自分の手で創り上げてほしいと思います。

そのためにも健康第一です。コロナ禍はまだ続きます。熱中症や自然災害にも気を付けて「自分の命は自分で守る」という気持ちで、元気で楽しい夏休みを過ごしてほしいです。